

TEL.03-5256-6770 http://cepajapan.org



一般社団法人 CEPA ジャパン 定時社員総会

議案書

日時:2014 年 5 月 22 日(水曜日) 19 時 00 分~20 時 00 分 会場:ちよだプラットフォームスクエア・会議室 502 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-21

- •JR 神田駅西口から出世不動通り徒歩 12 分
- http://yamori.jp/access/
- ・地下鉄 ■竹橋駅(東西線)3b KKR ホテル東京玄関前出口より徒歩2分
- ■神保町駅 (三田線・新宿線・半蔵門線) A9 出口より徒歩 7 分
- ■大手町駅(三田線・千代田線・半蔵門線・丸の内線)C2b 出口より徒歩8分
- ■小川町駅 (新宿線・千代田線) B7 出口より徒歩 8 分

○開会 代表理事あいさつ

第1部 総会

- 1. 総会開会の辞
- 2. 定足数の確認
- 3. 議長選出
- 4. 議案審議

第1号議案 2013 年度 事業・活動報告

第2号議案 2013 年度 収支決算報告

第3号議案 2014年度 事業・活動計画

第4号議案 2014 年度 予算計画

5. 議長退任

○閉会

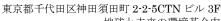
第2部 交流会 20時30分~22時00分

会場:「fune ふね」(※総会の会場と同じ建物 1F)

ちよだプラットフォームスクエア【1F】 TEL 03-5259-8051

会費: 4,000円

₹101-0041



地球と未来の環境基金内

TEL.03-5256-6770 http://cepajapan.org



第1号議案 2013 年度 事業・活動報告

1. 事業展開方針

第4期は、次のように位置付けて活動を展開した。

今期は、生物多様性条約事務局との覚書を踏まえた、第3期の「生物多様性国家戦略2012-2020」への提言反映や、「国連生物多様性の10年日本委員会」の企画業務受託などの本格的活動の開始を受けて、当法人らしい事業展開を模索する年と位置づける。その活動のキーワードとして「いきものぐらし」を掲げ、「5つのアクション」に基づいて事業展開する。

私たちの暮らしに恵みを与え、私たちのいのちを支えてくれている、無数の生きものたちへの感謝の気持ちを込め、私たちも含めた生きもの同士が共生する持続可能な暮らしを「いきものぐらし」と呼び、具体的な行動は、当法人の提言によって「生物多様性国家戦略 2012-2020」の「市民の役割」に記載された「5つのアクション」に基づき、日本の暮らしの知恵の伝承を考え、地球の自然資源の保全と持続可能な利用、そして国民の理解醸成に寄与する。

<事業内容>

2013 年度はCEPAジャパンの第一ステージの締めくくる一年として、以下の事業を展開した。

<1> CEPAジャパンの組織基盤強化

1. 理事会の機能強化

新理事の追加によって業務執行理事として担当業務の円滑な執行を進めるとともに、監事を二人体制とし、ガバナンス強化を図った。

2.事務局体制の強化

当法人への期待に応えるよう事業を活性化させるため、東京での事務局を「地球と未来の環境基金」のご協力で設置。事務局の機能強化に努めた。

3. 支援者組織化

会員数は、個人・法人あわせて、31名であり、引き続き、会員拡大に努力する。

2014年3月31日現在の会員数は以下のとおりである。

運営会員 20名 鑚同会員(個人) 10名 賛同会員(団体) 1名 賛助会員 0名

4.広報

当法人の基幹事業として「5 ACTIONS | に関するツールの開発を行った。

4-1.CEPA ジャパンのオフィシャルサイトで情報発信に努めた

http://cepajapan.org

4-2.生物多様性アクション大賞の創設に伴い、生物多様性の先進事例の収集を図るため、応募についての情報発信を行い、大賞が決定した後は、受賞団体の事例紹介に努めた。また地域でのパワーアップを図るためのワークショップ開催の参加を呼びかけた。

http://5actions.jp/award/

4-3.昨年度開設したCEPAに関するホームページを充実するとともに、英文対応のサイトも開設して、CEPAに関する情報発信に努めた。

「いきものぐらし」生物多様性に貢献している企業事例などを紹介して、一般消費者が選択可能な情



TEL.03-5256-6770 http://cepajapan.org

報を整備。 http://5actions.jp

もっと身近に、生物多様性。

「英文対応のサイト」http://5actions.jp/en/

4-4.引き続き、CEPA ジャパンのホームページに海外の事例を日本語で紹介した。

国際自然保護連合教育コミュニケーション委員会のニュースレターや生物多様性条約事務局のウェ ブサイトの情報を日本語に翻訳し、世界中の事例を一般に向け情報公開・発信する。

4-5.CEPA ジャパンの活動について、国内の事例収集を中心に行い、情報発信に努めた。

https://sites.google.com/site/cepajapan2012/home/information

4-6.引き続き会員向けの情報発信として、当法人の活動を紹介するメールマガジン「CEPA ジャパン NEWS」を毎月1回、計12回発行した。

4-7.facebook ページでの情報発信に努めた。和文 http://www.facebook.com/cepajapan.org 英文 http://www.facebook.com/CepaJapan

5. 総会・理事会の開催

【総会】

2013 年度の通常総会は 2013 年 5 月 22 日(水)に銀座6丁目マイ・スペース会議室で開催した。2012 年 度事業報告と決算、2013 年度計画と予算について決議した。また、所在地移転の定款の一部変更と新 任期になる理事を承認した。

なお、総会終了後は、会場を全国うまいものサロン NAMIHEI(なみへい)に移し替えて、第2部として生 物多様性保全に努力している内外の団体に呼び掛け「生物多様性の日」交流会パーティとして多数 の参加者のもとに開催したところ、参加者に好評を得たので、今後も定例的に呼びかけていくことに した。

【理事会】

また、2013 年度の理事会は以下の3回を開催した。

●2013 年 5 月 7 日理事会

総会の審議に付与するべき事項について審議、総会議案として上程した。

- •横浜からの所在地移転先を東京都千代田区にする定款変更案
- ・理事の選任案と、監事の増員案
- •2012 年事業報告•決算、2013 年事業計画•予算

合わせて運営体制に関することを審議した

●2013 年 10 月 21 日理事会

組織の基盤強化に関する事項を整備した。

- ・生物多様性アクション大賞の運営体制について協議した。
- ・上半期の評価と下半期の事業計画、予算推移について確認した。
- ●2014 年 4 月 9 日理事会(当初、2014 年 2 月に開催の予定が延期となったため) 次年度に向けての意見交換を行った。
- •下半期の評価と予算の執行状況について
- ・次年度事務局の機能強化のため、公認会計士の支援を得ていくことにした



TEL.03-5256-6770 http://cepajapan.org



6.その他

財政基盤強化をはかり、特に自主財源の獲得に力を注いだ。また組織基盤安定のため、地球環境基金からの助成を受けて、「5ACTION」のツール作成、ツールをつかった普及啓発を行った。また、引き続き、受託業務の拡大に努める。

<2> 普及啓発事業

1.生物多様性アクション大賞の開催

1-1.応募状況と受賞団体

生物多様性の主流化を目指し、「たべよう」「ふれよう」「つたえよう」「まもろう」「えらぼう」の5つのアクションに根ざした活動を募集する「生物多様性アクション大賞」を創設し、実行委員会を構成するとともに事務局の役割を担った。応募総数 122。

[大賞]たべよう部門優秀賞「滋賀・琵琶湖の伝統食作り」アイキッズ〜エコアイディアキッズびわ湖(滋 賀県)

[優秀賞]

- ○ふれよう部門優秀賞 「流域住民による生物多様性の保全と教育が一体となった取り組み」雨ふる 大地の水辺保全ネットワーク(大阪府)
- ○つたえよう部門優秀賞「環境出前授業」株式会社島津製作所 えーこクラブ(京都府)
- ○まもろう部門優秀賞「高安の里地・里山の伝統的な水質浄化法"ドビ流し"を応用した生物多様性の保全」NPO 法人ニッポンバラタナゴ高安研究会(大阪府)
- ○えらぼう部門優秀賞「フェアウッド・パートナーズ」フェアウッド・パートナーズ(東京都)
- ○復興支援賞「東日本大震災で失われたアマモ場の再生活動」 松島湾アマモ場再生会議(宮城県)
- ○GreenTV 賞「『生きもの豊かな田んぼ』の取り組み」株式会社アレフ(北海道)

「墨絵ア二メーション「うごくえこよみ」」一般社団法人 Think the Earth (東京都)

- ○セブン-イレブン記念財団賞「umihama そうじ」石巻海さくら(宮城県)
- ○審査委員賞 (50 音順)

「ミツバチによる環境教育と地域活性化」赤坂みつばちあ(東京都)

「泡瀬干潟を食べて、見て、守る!」泡瀬干潟博物館カフェ『ウミエラ館』(沖縄県)

「EV 搭載バッテリーを電源とする生物多様テーマのエコ・ビジュアルコンサート」NPO 法人海の森・山の森事務局(神奈川県)

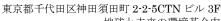
「かとうさんちの援農日」かとうさんち(山梨県)

「市民力・地域力の結集により、ふるさとの水辺と森の原生環境を再生・復活」NPO 法人グラウンドワーク三島(静岡県)

「COP11 YOUTH LEADER PROJECT」 JUNEC (こども国連環境会議推進協会)チーム「365×3」(東京都) 「みんなで守ろう!日本の希少生物種と豊かな自然! SAVE JAPAN プロジェクト」株式会社損害保険 ジャパン、日本興亜損害保険株式会社(東京都)

「富山県立大学エコツアー外来種除去活動」富山県立大学(富山県)





地球と未来の環境基金内

TEL.03-5256-6770 http://cepajapan.org



「海岸林再生活動」ゆりりん愛護会(宮城県)

「田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト」NPO 法人ラムサール・ネットワーク日本(東京都)

開催に当たっては、ニュースリリースを行うとともに、告知、チラシ配布、環境サイトでの告知などを行った。

環境 goo での、審査委員による座談会などの特設サイト

http://eco.goo.ne.jp/topics/biodiversity/award/

1-2.授賞式

【日時】2103 年 11 月 3 日(日) 13:30 — 16:30 【場所】日比谷図書文化館 B1F 日比谷コンベンションホール

主催者を代表して国連生物多様性の 10 年日本委員会事務局を担う、環境省生物多様性施策推進室の堀上勝室長の開会の挨拶に続いてアワード主旨説明、表彰状授与、受賞団体からのプレゼンテーション、応援スピーチなどを行った。CEPAジャパンらしく、参加者全員で「多様性を感じるワークショップ「モチは丸か四角か!?」」を行った。

http://5actions.jp/ceremony2013_report/

1-3.記念イベント「自然観察会」の開催

授賞式の開催を合わせて一般の方々を対象に「身近な所で生き物のつながりを実感し、秋の実りを楽しもう」をテーマにCEPAジャパン自然観察会を開催した。

【日時】2013 年 11 月 3 日(日) 10:30-11:30 【内容】日比谷公園の雲形池、または心字池周辺を観察

1-4.生物多様性全国ミーティングでの報告

国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J) 第三回生物多様性全国ミーティングで大賞・たべよう 部門優秀賞のアイキッズ〜エコアイディアキッズびわ湖〜の中村大輔さんが登壇

【日時】2013年11月10日(日) 【場所】兵庫県豊岡市

1-5.パワーアップ地域ワークショップ in 宮城

生物多様性アクション大賞の周知啓蒙を通じて CEPA ジャパンの目的達成を行うため、地域で活動している市民、企業、学校・クラスなどの生物多様性を豊かにする取り組みをしている人や個人に対して「生物多様性アクション大賞」にチャレンジする力をつけていただくためのワークショップを実施。その第一弾として宮城で開催した。

【日時】2014年3月1日(土) 【場所】東北大学/片平キャンパス DO4 生命科学プロジェクト総合研究棟1F会議室

2.普及啓発

2-1.MISIA の生物多様性検定アプリの開発

日本を代表する女性歌手であり、国連本部より生物多様性条約の会議(COP10)の名誉大使に任命さ





TEL.03-5256-6770

http://cepajapan.org

れた MISIA と、自身が理事を務め世界的課題を音楽やアートを通じて普及啓発することを目的に設立された一般財団法人 mudef と協力のもと、「生物多様性検定アプリ」を開発した。同アプリは、アップルストア AppStore から無料でダウンロード可能。

https://itunes.apple.com/sg/app/misiano-sheng-wu-duo-yang/id848223379?mt=8

2-2.CEPA ジャパンネットワークミーティングを開催

活動の報告と生物多様性の普及啓発に努めるCEPAジャパン会員の皆様との意見交換の場として開催

【日時】2013年11月25日(月) 【場所】東京駅貸会議室プラザ八重洲北口

2-3.日本最大の環境展示会 エコプロダクツ 2013 「生物多様性ナレッジスクエア」を主導他の14団体と一緒に「生物多様性ナレッジスクエア」として出展。「都市生活者が豊かな生物多様性を実現するために、できることのヒントの提供」を目的に、五つのアクション、MY 行動宣言者を広げる展示を展開。また、ナレッジスクエア参加 15 ブースを巡るクイズラリーも実施。IUCN-J と共同で音頭をとって進めた企画で、お蔭様で各ブースとも例年以上に盛り上がり、MY 行動宣言数は、三日間で 479 人が宣言。

【日時】2013 年 12 月 12 日(木) ~14 日(土) 【場所】東京ビッグサイト東展示場

2-4. 自然観察会の開催

自然観察指導員東京連絡会の協力を得て、日比谷公園での自然観察会を 11/3(生物多様性アクション大賞記念)と合わせて 3 回開催できた。合計約 180 人の方に都会の中での生物多様性を感じていただくことができた。

【日時】2013年5月19日(日)、8月5日(月) 【場所】日比谷公園

2-5. 海と田んぼからのグリーン復興会議、東北グリーン復興事業者パートナーシップ「浦戸」運営 海と田んぼからのグリーン復興会議の運営に携わるとともに、復興の試みを、「ヒトのつながりから、 都市と現地をつなぐ商流(バリューチェーン)」へと本格化させ、「事業者」が本業で関わることが必要 となった。そこで新しい東北のあるべき「グリーン復興」のビジネスを、事業者等を交えて可視化の実現に向け「東北グリーン復興事業者パートナーシップ」が立ち上がり、CEPAジャパンは塩釜市浦戸諸島において現地の一般社団法人「e-front」と共同して島のお母さんたちと地元の旬の食材を活用した「島のおすそわけ」商品開発を支援した。

3.その他

3-1.CEPA ジャパンとして、以下の事業に共催・後援・協力名義の使用を許可した。

【共催】

自然観察指導員東京連絡会(NACOT)「みどりの自然観察会 L

生態系サービスとビジネス勉強会「自然に基づく経済の新たな道筋」



TEL.03-5256-6770 http://cepajapan.org

【後援】

三井住友海上火災保険株式会社「緑のシンポジウム」 首都圏近郊里山/谷戸田サミット実行委員会「首都圏近郊里山/谷戸田サミット」

【協力】

3-2.CEPA ジャパンとして、以下の会合に参画・提言を行った。

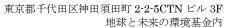
- ■以下の会合・会議に出席し、CEPA ジャパンとして発表を行った
 - ・里山イニシアティブ国際パートナーシップ第4回会合
 - ・第3回生物多様性全国ミーティング

JAPAN

もっと身近に、生物多様性。

- ・アジア国立公園会議
- つなぐ人フォーラム
- •にじゅうまるプロジェクトパートナーシップ会合
- ・SBSTTA17(生物多様性条約第 17 回科学技術助言補助機関会合)の会議参加、報告会での発表
- ■公益財団法人日本自然保護協会(NACS-J)に団体会員として加盟
- ■SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワークに参加
- ■生物多様性民間参加パートナーシップへ参加申請、川廷代表はアドバイザリーボード
- ■国連生物多様性の 10 年日本委員会の委員、運営部会のメンバーとして、「MY 行動宣言5つのアクシ ョン」を生物多様性の主流化に向けたツールとして制作した
- ■低炭素社会実現に向けた気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同
- ■生物多様性ちば企業ネットワークに支援メンバーとして参画





TEL.03-5256-6770 http://cepajapan.org



第2号議案 2013年度収支決算案

貸借対照表

平成26年3月31日現在

(単位:円)

	科	B			当年	前年	増減	
T 20% :					<u> </u>	BU-T	~E #%	
I資店	奎の部							
1 流動	协資産							
現	金	73	Į	金	25,648	0	25,648	
売	ŧ	佳		金	0	500,000	Δ 500,000	
流	動資	産	合	計	25,648	500,000	Δ 474,352	
2 固	定資産							
固	定資	産	合	計	0	0	0	
		資	産 合	計	25,648	500,000	△ 474,352	
Ⅱ負債	責の部							
1 流動	1 流動負債							
短	期(昔	入	金	1,500,000	1,858,349	△ 358,349	
未	払 法	人	税	等	64,900	0	64,900	
流	動負	債	合	計	1,564,900	1,858,349	Δ 293,449	
2 固定	2 固定負債							
固	定り負	債	合	計	0	0	0	
		負	債 合	計	1,564,900	1,858,349	Δ 293,449	
皿 正味財産の部								
1 -	设正味財産				△ 1,539,252	△ 1,358,349	△ 180,903	
2 指5	と正味財産				0	0	0	
		正明	財産台	情	△ 1,539,252	Δ 1,358,349	Δ 180,903	
	負債及	び正明	財産台	信	25,648	500,000	Δ 474,352	





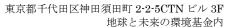
財産 目 録 平成25年3月31日現在

JAPAN

もっと身近に、生物多様性。

			(単位:円)
内 訳		金額	
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
現金	[0]		
普通預金	[25,648]		
三菱東京UFJ銀行横浜支店	25,648		
流動資産合計		25,648	
2 固定資産			
	[0]		
固定資産合計		0	
資 産 合 計			25,648
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
短期借入金	[1,500,000]		
運転資金借入	1,500,000		
未払法人税等	[64,900]		
流動負債合計		1,564,900	
2 固定負債			
	[0]		
固定負債合計		0	
負 債 合 計			1,564,900
Ⅲ 正味財産の部			
正味財産			Δ 1,539,252





TEL.03-5256-6770 http://cepajapan.org



正味財産増減計算書

平成25年4月1日~平成26年3月31日

一般会計							(単位:円)
	科	目			当年	前年	増減
I 一般正明	未財産増	!減(の部				
1 経常増減	載の部						
(1) 経常	収益						
① 受理	仅会費				[292,000]	[282,000]	[10,000]
受	取		会	費	292,000	282,000	10,000
② 事	業収益				[4,559,069]	[1,227,800]	[3,331,269]
受	託 事	.	業収	益	4,559,069	1,227,800	3,331,269
③ 受耳	及助成金	Ž			[10,914,000]	[1,401,000]	[9,513,000
受	取	助	成	金	10,914,000	1,401,000	9,513,000
④ 受理	仅寄付金	Ž			[70,000]	[104,000]	[<u>\(\(\(\) \) 34,000 \(\) \(\)</u>
受	取	寄	付	金	70,000	104,000	Δ 34,000
⑤ 雑4	又益				[370]	[81]	[289]
受	取		利	息	370	81	289
経	常	収	益	計	15,835,439	3,014,881	12,820,558
(2) 経常	費用						
① 事	業費	t			[15,408,395]	[4,048,191]	[11,360,204
採	用	教	育	費	4,000	11,400	△ 7,400
外		注		費	7,893,854	1,118,047	6,775,807
荷	造		運	賃	170,382	0	170,382
広	告	宣	伝	費	5,154,568	2,265,000	2,889,568
会		義		費	37,570	8,360	29,210
旅	費	交	通	費	1,682,917	521,934	1,160,983
消	耗		品	費	87,786	0	87,786
地	代		家	賃	0	30,000	Δ 30,000
賃		借		料	190,940	93,450	97,490
IJ	_		ス	料	63,378	0	63,378
雑				費	123,000	0	123,000
② 管	理費	_			[543,047]		
福	利	厚	生	費	14,000	0	14,000
会		議		費	30,000	0	30,000
旅	費	交	通	費	40,000	10,000	30,000
通		信	_	費	70,231	25,120	45,111
事	務	用	品	費	30,038	18,259	11,779
支	払	手	数	料	30,801	7,925	22,876
諸		会	_	費	0	15,000	Δ 15,000
地	代		家	賃	0	10,000	Δ 10,000
IJ	_		ス	料	63,377	0	63,377
租	税		公	課	141,600	0	141,600
雑				費	123,000	0	123,000
経	常	費	用	計	15,951,442	4,134,495	11,816,947





TEL.03-5256-6770 http://cepajapan.org

ı		T	
当期経常増減額	△ 116,003	Δ 1,119,614	1,003,611
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	[0]	[0]	[0]
経 常 外 収 益 計	0	0	0
(2) 経常外費用	[0]	[0]	[0]
経 常 外 費 用 計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	Δ 116,003	Δ 1,119,614	1,003,611
法人税、住民税及び事業税	64,900	52,500	12,400
一般正味財産期首残高	Δ 1,358,349	△ 186,235	Δ 1,172,114
一般正味財産期末残高	△ 1,539,252	Δ 1,358,349	△ 180,903
Ⅱ 正味財産期末残高	△ 1,539,252	Δ 1,358,349	Δ 180,903

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針 (1) 消費税等の会計処理

税込方式

2. 重要な会計方針の変更

当期から法人税、住民税及び事業税の計上を現金主義から発生主義に改めた。 このため、当期分として法人税、住民税及び事業税に計上した64,900円のほか、 租税公課に平成24年度の税額70,000円(平成25年5月納付)が含まれている。



TEL.03-5256-6770 http://cepajapan.org

監査報告書

一般社団法人CEPAジャパン 代表理事 川廷昌弘 様

監事 浅見 哲

私は、第4期(2013年4月1日から2014年3月31日まで)の事業報告及び計算書類(財産目録、貸借対照表及び損益計算書)について監査を行った。

私は、理事の業務執行状況についての監査に当たっては、理事会に出席し、必要と認める場合には 質問を行った。また、財産の状況に関する監査に当たっては、帳簿や証拠書類の閲覧、照合、質問等の 合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、団体の業務は法令及び定款に基づき、適正に処理されているものと認められた。 よって、私は、上記の業務報告書及び計算書類が、一般社団法人CEPAジャパンの 2014年 3 月 31 日をもって終了する事業年度の業務年度の業務執行の状況及び同日現在の財産の状況を適正に表示しているものと認める。







第3号議案 第5期(2014年度)事業・活動計画

[事業展開方針] ■第1ステージから第2ステージへ

2010 年の CEPA ジャパン創設から第5期を迎える本年度は、まさに法人としての基礎固めの「第1ステ ージ」から、普及拡大を加速度的に高めていく「第2ステージ」への転換点に差し掛かっているといえ る。生物多様性を入り口にした自然共生な暮らしの気づきから、自然共生な暮らし、「いきものぐらし」 のデザインへ当法人らしい事業展開を形作っていく年と位置づける。その活動のキーワードとして「い きものぐらし」を掲げ、「5つのアクション」に基づいて事業展開する。

私たちの暮らしに恵みを与え、私たちのいのちを支えてくれている、無数の生きものたちへの感謝の気持ち を込め、私たちも含めた生きもの同士が共生する持続可能な暮らしを「いきものぐらし」と呼び、具体的な 行動は、当法人の提言によって「生物多様性国家戦略 2012-2020」の「市民の役割」に記載された「5 つのアクション」に基づき、日本の暮らしの知恵の伝承を考え、地球の自然資源の保全と持続可能な利用、 そして国民の理解醸成に寄与する。

[今年度の具体的な事業]

1、「生物多様性アクション大賞 2014」

「いきものぐらし」による地域づくりでの生物多様性社会の構築を目指すために、各地の取組みを5つ のアクションに基づいて収集するしくみとして昨年度創設したが、今年度は「国連生物多様性の 10 年 日本委員会」の主催事業として、更に規模を拡大して展開していく。

◆主な事業内容:選考事務局運営、ウェブサイトによる情報発信、映像制作、贈呈式記念イベント、及び パワーアップ地域ワークショップ開催など

2、普及啓発イベント

「いきものぐらし」を共有し実感できるようなイベント、5つのアクションの事例収集など、様々な形態 を検討。都市生活の中で、もっと身近に、生物多様性を感じる事業など展開。

◆主な事業内容:連続セミナー開催、ネットワーク自然観察会開催、エコプロダクツ展連携、Bセンスさ んぽ開催など

3、広報

継続して懸案であった「CEPA ジャパン」オフィシャルサイトのリニューアルを実施して、さらに情報発信 に努め、「いきものぐらし」サイトでの全国各地から「5つのアクション」に基づいた事例収集を行う。

◆主な事業内容:CEPA ニュース配信12回、IUCN-CEC ニュースレターの翻訳と情報発信、CEPA ジャパン サイトによる情報発信など

4、組織運営

当法人への期待に応えるために、年々充実した財務の更なる安定化を図り、継続的な事務局体制を

◆主な事業内容:事務局業務に加えて会計業務の外部委託、事業収入の拡大など

5、他団体との連携

日本におけるCEPA活動の中核を担う法人として、愛知ターゲット達成に向けて、全てのセクターとの 連携を図り、これまでにない広報、教育、普及啓発の施策を創発する。

◆主な事業内容:東北グリーン復興の推進、ESD 国際会議への参画、生物多様性条約 SBSTTA18 およ び COP12 への参画など

CEPA JAPAN もっと身近に、生物多様性。

東京都千代田区神田須田町 2-2-5CTN ビル 3F 地球と未来の環境基金内

TEL.03-5256-6770 http://cepajapan.org

CEPA ジャパン 2014 年度活動に向けて

第1ステージから第2ステージへ。 「市民からの普及啓発事業開発」

CEPA ジャパン代表 川廷昌弘

CEPA ジャパンは、「もっと身近に、生物多様性。」をスローガンに、暮らしから生物多様性の 恩恵に気づくタッチポイント「5つのアクション」を提唱し、2011年5月から活動を開始。その 目標は、多くの人に持続可能な社会づくりに資する感性を思い返してもらい行動してもらうこと。 それが愛知ターゲットの目標1でもある。

まず「生物多様性国家戦略 2011-2020」への提言活動を行った結果、「市民の役割」に「5つのアクション」を記載する事となった。これを国民運動ツールとするため環境省に提案し、環境省が事務局である生物多様性の主流化を目的とする「国連生物多様性の10年日本委員会」の公式ツール「MY 行動宣言 5 つのアクション」となった。

さらに「5つのアクション」の具体例を収集する装置として、「生物多様性アクション大賞」を 企画立案し多数の協賛社を得て実施。収集した事例をウェブサイト「いきものぐらし」でアーカ イブしていく。これが CEPA ジャパンの主管事業となった。この動きを求心力にして、エコプロ ダクツ展で「生物多様性ナレッジスクエア」をプロデュースし、多くの仲間達をプラットフォー ムに乗せて、普及啓発のパワーアップを目指している。

付帯事業として、都市部での「自然観察会」の実施や、地方の市民活動の発信力を高めるための「パワーアップワークショップ」、自然資本を価値評価できる社会の仕組みに向けた模索など、気づきやスキルアップの機会を提供する。

東日本の復興支援で、自然資源を考えたレジリエントな地域づくりのモデルを創出するため、「うみたんグリーン復興プロジェクト」の事務局を担い、政府、自治体、企業、市民を巻き込んだマッチング・プラットフォームを目指して運営している。

以上のように 2013 年度の活動で、第1ステージを終えたのではないかという実感があり、第2ステージとは、生物多様性を入り口にした自然共生な暮らしの気づきから、自然共生な暮らし「いきものぐらし」のデザインで、ライフスタイルのシフトを語り、ネイチャーテクノロジー、グリーンエコノミー、流域思考、グリーン復興などで、企業へのCEPAコンサルティング活動を通した事業開発も構想し、「都市生活者を考える生活者に」という、CEPAジャパンのもうひとつのキーワードを踏まえた、コミュニケーション・デザインをする組織へと進化していきたいと考えている。

今秋 11 月の ESD ユネスコ世界会議に国内からの提言を取りまとめるため、国内の「生物多様性と ESD」のテーマ会議をファシリテート、持続可能な地域づくりのため気候変動の適応策や地域の災害対策も含めた「流域思考」を推進しているが、ESD そのものの理解も CEPA 活動と捉え、国内の ESD リーダーと共にコアメンバーとして活動を進めており、8 月に国連大学で開催される国内のプレイベントの実行委員団体となっている。

生物多様性条約事務局が推進する「グリーンウェイブ」を、環境省、林野庁と連携して推進する、民間ネットワーク組織「生物多様性と子どもの森実行委員会」を委員長として取りまとめ、 構成団体として参画しているが、この「グリーンウェイブ」も、もっと参加のハードルを下げる

∓ 101-0041



東京都千代田区神田須田町 2-2-5CTN ビル 3F 地球と未来の環境基金内

TEL.03-5256-6770 http://cepajapan.org

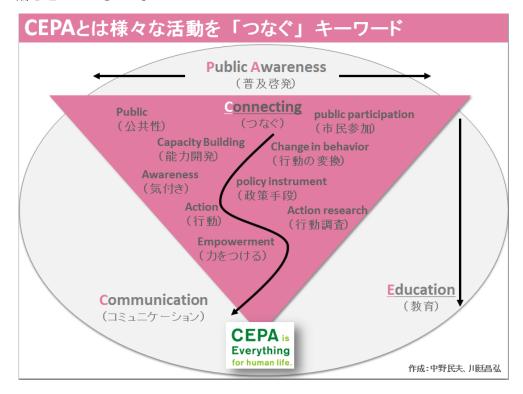
ためのコミュニケーション・デザインを積極的に検討していく。原案を提案した教育ツール「一本の木の物語」も続編の制作を行い、テキストの発行も検討する。

気候変動枠組条約の「適応策」に関して、今年3月に横浜で作業部会が開催されたが、CO2削減の「緩和策」である「低炭素社会づくり」中心の政策から、「適応策」である「災害に強い社会づくり」の両輪で気候変動対策がようやく論じられようとしている。「適応策」は、異常気象に伴う災害対策であり、地域の自然背景の理解のもと、都市計画を行うものであるため、地域の生物多様性の理解、流域思考、それに伴うライフスタイルのシフトが重要になる。これが本来語られるべき、自然共生社会であり、ここに CEPA の大きな役割がある。省庁への働きかけ、地域戦略への反映などの政策提言や、CSR、CSV、ESD、環境コミュニケーションなどの企業コンサルティングや、NGO/NPO との連携、そして市民への普及啓発を課題にしたい。

これらの独自の取組みを背景に、「国連生物多様性の10年日本委員会」の運営を環境省から受託。文字通りCEPAジャパンの活動が、日本のCEPAのスタンダードであり、市民が仕掛ける生物多様性の普及啓発最前線と考えている。

2014年度は、生物多様性条約の中間報告という節目でもあり、環境省と連携し国内の取組みを10月に韓国で開催される COP12の大型サイドイベントで発表することをピークに、11月の ESD ユネスコ世界会議、2015年3月の国連防災世界会議でのアクションも視野に入れて活動する。また「生物多様性アクション大賞」は、国連生物多様性の10年日本委員会の主催事業とし、共催にセブン・イレブン記念財団、CEPA ジャパンは事務局と位置づけた三者協定を交わして、主管事業としてさらに発展させていく。

こうした一連の活動を理解しやすいようにウェブサイトの改訂も検討し、団体の広報活動そのものも推進させ、2015年のポスト MDGs や、愛知ターゲット最終年であり、東京オリンピック・パラリンピック開催の 2020年に向けて、環境コミュニケーションの重要性をアピールし、CEPAジャパンで想いを共有している、「アース・コミュニケーション・センター」構想を具体化する議論を進めていきたい。





第4号議案 2014 年度予算案 一般社団法人 CEPA ジャパン

収支予算書

自平成26年4月1日 至平成27年3月31日

(単位 円)

	(単位 円)		
科目	4 期予算	5 期予算	増減率
I 経常収支の部			
1. 経常収益			
受取会費	498,000	330,000	66.3%
正 会 員	360,000	240,000	66.7%
賛 助 会 員	138,000	90,000	65.2%
寄付金	1,000,000	300,000	30.0%
寄付金	1,000,000	300,000	30.0%
助成金	3,100,000	5,000,000	161.3%
助成金	3,100,000	5,000,000	161.3%
事 業 収 益	1,900,000	10,700,000	563.2%
参加者負担金	200,000	200,000	100.0%
受託費	1,200,000	5,000,000	416.7%
協賛金	500,000	5,000,000	1000.0%
その他事業収入	0	500,000	#DIV/0!
雑収入	0	0	#DIV/0!
受取利息	0	0	#DIV/0!
その他雑収入	0	0	#DIV/0!
			#DIV/0!
経常収益 計	6,498,000	16,330,000	251.3%
2. 経常費用			
①事業費	4,465,000	14,825,000	19.8%
給与手当	0	0	0.0%
法定福利費	0	0	0.0%



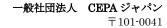


もっと身近に、生物多様性。

東京都千代田区神田須田町 2-2-5CTN ビル 3F 地球と未来の環境基金内

TEL.03-5256-6770 http://cepajapan.org

	•	1	http://ce
福利厚生費	0	30,000	0.0%
通信運搬費	200,000	200,000	50.0%
水道光熱費	0	0	0.0%
旅費交通費	400,000	2,000,000	23.5%
広告宣伝費	300,000	4,000,000	#DIV/0!
研修費	30,000	30,000	12.5%
会議費	20,000	100,000	3.2%
消耗品費	300,000	300,000	63.8%
会場等賃借料	100,000	350,000	6.8%
保険料	0	0	0.0%
諸会費	15,000	15,000	150.0%
支払手数料	0	0	#DIV/0!
業務委託費	2,300,000	7,500,000	18.4%
租税公課	0	0	#DIV/0!
諸謝金	300,000	0	46.9%
共催分担金	200,000	0	100.0%
雑費	300,000	300,000	93.8%
②管 理 費	1,095,000	1,415,000	86.2%
給与手当	0	0	0.0%
法定福利費	0	0	0.0%
福利厚生費	0	0	0.0%
通信運搬費	100,000	100,000	100.0%
水道光熱費	0	0	0.0%
旅費交通費	100,000	0	166.7%
広告宣伝費	0	0	#DIV/0!
研修費	60,000		100.0%
会議費	30,000		100.0%
消耗品費	150,000	50,000	187.5%
地代家賃	40,000	0	33.3%
保険料	20,000	0	100.0%
諸会費	15,000	15,000	16.7%
支払手数料	20,000	40,000	40.0%
業務委託費	400,000	910,000	133.3%
租税公課	60,000	200,000	#DIV/0!
諸謝金	20,000	20,000	#DIV/0!
	<u>_</u>	I.	<u> </u>





もっと身近に、生物多様性。

東京都千代田区神田須田町 2-2-5CTN ビル 3F 地球と未来の環境基金内

 $\mathbf{TEL.03}\text{-}5256\text{-}6770$

http://cepajapan.org

•	1	1	http://ce
雑費	80,000	80,000	100.0%
経常費用 計	5,560,000	16,240,000	23.4%
当期経常増減額	938,000	90,000	177.0%
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0		
(2)経常外費用			
経常外費用計	0		
当期経常外増減額	0		
当期一般正味財産増減額			
一般正味財産期首残高	▲1,101,349	▲ 1,474,352	
一般正味財産期末残高	▲1,474,352	▲ 1,384,352	
Ⅱ指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0		
指定正味財産期首残高	0		
指定正味財産期末残高	0		
Ⅲ 正味財産期末残高	291,265		

₹101-0041

東京都千代田区神田須田町 2-2-5CTN ビル 3F 地球と未来の環境基金内

TEL.03-5256-6770 http://cepajapan.org

[参考資料]

■シンボル

A

もっと身近に、生物多様性。

В

もっと身近に、 生物多様性。

CEPA

JAPAN

もっと身近に、生物多様性。



C



もっと身近に、生物多様性。

[CEPAジャパンのミッション]

- 1、愛知目標達成のため、生物多様性の普及啓発を推進し 全国の取り組みを紹介する受け皿となる
 - 2、地域の個性を守るため、各自治体や企業、市民と 生物多様性の実施計画を推進する
- 3、持続可能な生産と消費と、Green Economy の理解促進を図り 新しい取り組みを創出する

[CEPAジャパンのビジョン]

生物多様性が豊かであり、災害大国でもある国土に生きる市民として、COP10 で採択された「愛知ターゲット」達成のため、日本の市民社会が提案して国連総会で採択された「国連生物多様性の10年」を推進します。

そのために、日本の伝承文化や CEPA プログラムを、生物多様性を理解し自然と共生する心豊かな暮らしを理解できるツールとして活用します。

そして、持続可能な社会の実現を加速させる誰もが学びたくなる「アース・コミュニケーション・センター」 を、都市の中心部に世界に通用するエデュケーションセンターとして建設することも目指します。

さらに、先住民族グループ(IIFB)ともグローバルな活動をしながら、2050 年には地球上に存在する社会 すべてが自然資源のバランスに配慮した幸せな社会となっていることを目指します。